

令和6年5月29日

守谷市議会議長 殿

報告者 椎名 愛子 印

守谷市議会議員視察研修
静岡県島田市「KADODE OOIGAWA」視察・研修報告

標記の件について、次のとおり参加したので報告します。

視察・研修日		令和6年5月21日（火）
視察・研修場所		静岡県島田市「KADODE OOIGAWA」
視察・研修項目		インターチェンジ開設に伴う周辺施設の整備について
参加者	守谷市側	寺田文彦(議長)、長谷川信市(副議長)、梶岡香織、椎名愛子、滝川竜雅、菊地詩子、小菅勝彦、海老原博幸、田中啓一、山本広行、渡辺大士、堤茂信、高梨隆、渡辺秀一、青木公達、山田美枝子、高梨恭子、高橋典久、梅木伸治 宮坂広志(副市長)、川村和彦(議会事務局長)、高橋哲也(局長補佐)、和久田智也(議会事務局) ※敬称略、議員は正副議長を除き議員番号順
	相手側	KADODE OOIGAWA 株式会社 代表取締役 福本作治 経営企画部 部長 杉村格 島田市議会 議長 藤本善男 議会事務局 事務局長 秋山尚弘 次長 榎林弘三、松浦静香、田原涼太 島田市 観光文化部長 鈴木明宏 産業観光部 内陸フロンティア推進課 課長 塩谷吉隆 観光文化部 観光課 課長 森川利久 係長 遠藤有喜 ※敬称略

視察・研修目的	守谷市におけるスマート IC の開設に向けて、静岡県島田市の IC 周辺における、官民連携によるプロジェクト「賑わい創出機能を持つ複合型商業施設」の成功事例を視察することにより、守谷市のスマート IC 導入時に、横展開を検討するため。
視察・研修内容	別記
視察・研修総括 (今後の取組み等)	IC 周辺整備の成功事例として「KADODE OOIGAWA」を視察。大井川流域の農業振興・地域活性化をコンセプトに、観光ハブとして機能しており、守谷市の課題解決/発展の大きなヒントになると考える。 今後のスマート IC 整備に向けた一事例として参考にしながら取り入れていきたい。

視察・研修内容
【施設概要】 JA おおいがわ、静岡県島田市、大井川鐵道、NEXCO 中日本（高速道路）の、4 社連携によるプロジェクト。大井川流域の農業振興、地域活性化を目的としつつ更に観光のハブとしても機能している。 施設名称:KADODE OOIGAWA（かどで おおいがわ） 開業日 :2020 年 11 月 12 日 所在地 :静岡県島田市竹下 62 施設規模:面積 14,825 m²/ (マルシェ、レストラン、カフェ、観光拠点等) 駐車場 :550 台 【基本コンセプト&ビジョン】 地域の自身と誇りを根付かせる場所としてモノ、サービスが集まる拠点。 大井川流域の農業を元気にする&おいしさを発信するという想いが根底にあり、農業を「食べる」、「遊ぶ」、「買う」という体験を通して発信する。持続可能な農業の未来を次世代に受け継ぐための施設。

【施設のあり方】

地域と生産者をつなぐ「ハブ」。地域の文化や観光拠点としてモノと人をつなぐ場所。それぞれの立場によって別の顔を持つ。

農家

→売れる環境と商品の卸先であると同時に農業や農家を知ってもらえる場所

地域住民

→子連れも安心して毎日通いたくなる場所。雇用創出の面での期待値もある。

観光客

→あくまで観光として農業体験ができる。「農業が観光目的」となるような強いコンテンツを用意。

【質疑応答】

Q. 四者（JA おおいがわ、大井川鐵道、NEXCO 中日本、島田市）が連携して賑わい拠点を整備するに至った理由は

A. 地域の意見を取り入れた「まちづくり基本計画」に基づき、地区の玄関ゾーンに、立地条件や地域資源を活かした「賑わい機能」を誘導すべきと整備をしていた。

その一方で、JA おおいがわも、その頃、その前面道路である国道 473 号（現在も工事中）の拡幅整備の計画が持ち上がったことに伴い、ある南の支店の移転が検討されていた。その中で、単に支店を移転するというだけでなく、農協改革の一環の中で地域貢献として地域に賑わいをもたらすことのできる新たな取組を模索していた。

それを島田市が知ることとなり、地域に大きな関わりのある大鐵や NEXCO を巻き込んで官民四者連携による、このプロジェクトとなった。

NEXCO としては、新設の高速道路の利用促進のための衛星地域開発、衛星地域振興を目的として衛星自治体である島田市とも協力関係を持っていた。

また、大井川鐵道については、地域振興には、この地区のシンボルのひとつである SL は欠かせないということで声掛けを行った。

Q. 賑わい交流拠点の整備の方向性（コンセプト）はどのように意思決定されたのか

A. 平成 27 年のワークショップにおいて固まった。

構想に当たり連携各社の抱える課題等を「大井川流域の振興」という共通理念のもとでの解消を目指した。

連携の、ごく初期の段階で、その理念の実現を図る為の、このプロジェクトの方向性に各者のトップの合意ができたことで、その後のスムーズな事業推進に結びついたものとする。

包括連携協定における役割分担は、プロジェクトの馴れ初めを踏まえ、

JA → 中心的な役割を担う

島田市 → 行政の立場で全体的に協働補助をとり、他の２者（NEXCO、大鐵）のそれぞれの立ち位置において、特性や強みを活かすことにより課題解決しつつ周辺一帯の地域振興に寄与することのできる拠点づくりを目指した。

Q. 総事業費の額は

A. 建設にあたり、ひとつの施設を共同出資して整備するのではなく、共通のコンセプトのもとで、連携各社のそれぞれ立ち位置に基づいてパーツを作って、来場者に一体的な体験を提供できるエリアの創出を目指した。

島田市（行政）としては土地取得や用地造成の部分での協力や、公共インフラ整備を実施した。島田市土地開発公社が用地取得から粗造成までを行いJAに売却した。

島田市負担分事業費は、総額で約 14 億円。KADODE OOIGAWA の建物と敷地は JA、新駅の門出駅は、大鐵が事業分担しているので島田市からの回答はできかねる。

Q. 整備に当たって国または県の補助金の活用はあったか

A. 事業費全体の財源として、国の地方創生関係の交付金、県の観光関係の補助金を使ったほか、合併特例債を大いに活用した。

Q. 賑わい交流拠点が雇用の創出に果たす役割は

A. 商業施設が開業したことにより、100 名程度の雇用が発生した。

（KADODE OOIGAWA の運営について）

Q. 運営に当たっての４者（JA おおいがわ、大井川鐵道、NEXCO 中日本、島田市）の役割分担は

A. 賑わい交流拠点の運営は JA と島田市が担う。

その中で、中核施設である KADODE OOIGAWA は JA が設立した新設の運営会社である KADODE OOIGAWA 株式会社が、物販兼観光案内所「おおいなび」は、島田市が観光協会に運営を委ねている。

その他として、KADODE OOIGAWA の運営面の支援として、KADODE OOIGAWA 株式会社に対し大井川鐵道と島田市が追加出資を行っている。

Q. KADODE OOIGAWA への訪問人数（平日・休日）及び収支は

A. 来場者数は右肩上がりに増えており、昨年（2023 年）5 月には、累計来場者数 200 万人を達成し、まもなく 300 万人を迎えようとしている状況。

休日（土日祝）の来場者数は平均して 8,000 人/日である。

Q. ETC2.0 を活用した一時退出・再進入は計画しているか

A. 来場者国土交通省の進めている ETC2.0 の活用による「かしこい料金」の社会実験については、IC 周辺の利便施設を整備するということで、島田市も意識をして相談などしていたが、社会実験の対象施設が道の駅であるという点と、連携パートナーの NEXCO 中日本に難色を示されたことで断念した。